

福岡市教育委員会賞

「入院で知った温かい税金と家族」

福岡市立香椎第三中学校 3年

藤野 里彩

「あー。春になったら自動車税に固定資産税に。税金でお金がどんどん出て行くね。」毎年春になるとそうため息まじりに呟く大人の声を聞いていた私は、大人になると、払わないといけないものが色々あって大変だな、と感じて、税金に対して良いイメージを持っていませんでした。税金は、働いている人が納めるお金で、社会で色々役に立っているものである、と簡単には分かっていたのですが、今ひとつ私には実感することがなかったからです。

しかし今年の春、初めて自分自身が、税金のしくみを実感する機会がありました。私は幼い頃から繰り返していた中耳炎で、長年、左の鼓膜に穴が空いたままになっていました。そろそろ鼓膜を閉じる手術を受けたほうが良いと主治医から言われ、2週間入院して手術を受ける事になりました。手術直後、全身麻酔で意識が朦朧としている私に、いつもと変わらない明るい声で話しかけてくれる母の声、久しぶりにつかない母の手の温もりが、私の大きな不安をかき消してくれました。それから、幼い妹を連れて母は毎日お見舞いに来てくれたり、父も仕事の合間に立ち寄ってくれたりして、家族の温かさを再認識することができた入院でした。

退院の日、迎えに来た母に、感謝の気持ちを伝えたあと、何気なく、

「入院や手術代って高いと？」

と聞いてみました。

「福岡市子ども医療助成制度っていうのがあって、ほとんど税金から来るお金で払ってもらったとよ。本当に助かるね。」

と母は言いました。

子どもが手術を受ける時に、家族も大きく心の負担を抱えるのに、金銭的な負担が大きいとどんなに大変だろうか、と思います。税金は、弱い立場の人たちを支える大切な役割を果たしていることを、私は初めて実感しました。

退院後、私は税金がどのように社会の役に立っているのか具体的に知りたくなり、調べてみました。まず身近なところでは、小中学校で学ぶための費用です。教科書や体育で使うボール、冷房機器なども税金が使われていることを知りました。私たちが心地よく勉強出来る環境は、働いて税金を納め、運用してくださる様々な人たちによって支えられているのです。

私が入院をしてつらかった時、お見舞いに来てくれた家族の「温もり」が私を支えたように、私たちの生活は、税金という「温もり」が支えているのだと思います。

私は人の温かさや、税金によって助けられたことに心から感謝できる人間になりたいと強く思います。そして将来私が働いた時に、税金を納めることで少しでも社会に恩返しができるように、今は勉学に励みたいと思います。